ON4CRD

第01巻

クラブへようこそ — 世界と登場人物



Radio Club Durnal ON4CRD

https://on4crd.be

法的表示

第01巻 · クラブへようこそ — 世界と登場人物

ウェブサイト発行者 : Radio Club Durnal ON4CRD

出版マネージャー : Radio Club Durnal ON4CRD 委員会

https://on4crd.be

法的表示

知的財産

サイト上で公開されているテキスト、画像、文書、ロゴ、および資料は、それぞれの作成者またはクラブの所有物です。複製または再利用は、出典、該当する権利、および著者の許可を尊重する必要があります。

責任

クラブは、有益で検証された情報を公開するよう努めていますが、誤り、脱落、または中断がないことを保証するものではありません。技術情報または規制情報が決定を裏付ける場合は、公式情報源と照合する必要があります。

イラストは人工知能の支援を受けて制作しています。

電波の世界への扉



夕暮れ、少年 (Lucas)はクラブの明かりに気づく。



窓の向こうに、机と機器が見える。



静けさに声が響き、やがて雑音に変わる。



話した人の姿を目で探す。



小さな部屋に、遠くからの声が届いている。



好奇心に誘われ、扉を押した。

最初のあいさつ



白髪の男性 (Henri)がノートから顔を上げる。



ほほえむと、眼鏡が少し下がる。



受信中の声を妨げず、少年を迎える。



身ぶりで机のそばの席を勧める。



少年は話したくも、聞きたくもある。



笑顔と差し出された椅子から、出会いが始まる。

机の上の世界



ヘッドホン、ノート、光る目盛りが目に入る。



どの物にも、物語がありそうだ。



操作部に触れず、受信機に近づく。



指導役が手元のヘッドホンを示す。



マイクは台の上で休んでいる。



冒険は、耳を傾けることから始まる。

どこかにいる誰か



雑音の中から声が現れる。



姿の見えない人の声を聞く。



別の机、別の窓、別の景色を想像する。



一人が話し終えると、別の声が答える。



声の間の静けさも、新しい発見だ。



機械ではなく、人と人が話している。

あふれる疑問



声はどうやって耳まで届くのだろう。



居場所を知らない相手も聞こえるのかな。



かすかにしか聞こえない言葉もあるのはなぜ。



質問しすぎが心配で、手を上げたまま迷う。



指導役は答えるため、そっとノートを閉じる。



一つの質問が、発見の始まりになる。

クラブのもう一つの笑顔



別の大人 (Simon)がヘッドホンを持ってやって来る。



茶色の髪と濃い短いひげに、明るい笑顔。



緑のパーカーは、指導役のセーターとは違う。



知らない声に出会う喜びを覚えている。



少年は自分と同じわくわくを感じる。



同じ机に、さまざまな無線への思いが集まる。

一緒に聞く



少年は、聞き分けやすい特徴を探す。



指導役は答えを教えず、待っている。



もう一人の大人がノートの空白を示す。



少年は聞こえた音の動きを描く。



迷い、描き直し、次の音と比べる。



小さな絵が、会話を進めてくれる。

分からないことのための余白



絵は思ったとおりにはならない。



すべての音を今すぐ理解したい。



指導役が自分の白いページを見せる。



パーカーの大人は笑って肩をすくめる。



二人にも、まだ分からないことがある。



少年は次の疑問のため、余白を残す。

見えない道をたどる



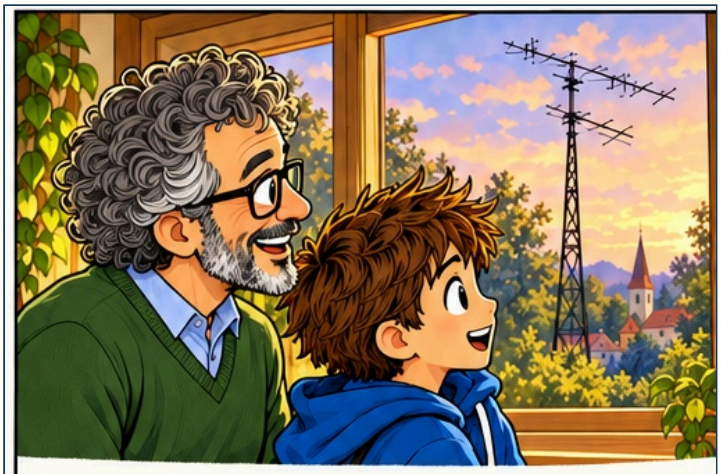
指導役がアンテナ、受信機、ヘッドホンを描く。



少年は絵と部屋の物を見比べる。



ヘッドホン、次に受信機が分かる。



アンテナは窓の向こうに見える。



分解せず、指で絵の道をたどる。



物どうしのつながりが、少し分かってきた。

つかめない音



新しい音は、短すぎて分からない。



少年はすぐ二人の大人を見る。



指導役は、実際に何を聞いたか尋ねる。



音の始まりと、聞き失った部分を説明する。



ひげの大人は、続きを想像で埋めないよう勧める。



すべて知らなくても、探し始められる。

小さな発見



しばらくして、同じ特徴がまた聞こえる。



少年は背を伸ばす。書き留めた音だ。



二度の聞き取りを絵と比べる。



指導役は静かにうなずく。



もう一人も笑う。競争にする必要はない。



小さな手がかりを、自分で見つけた。

先に、みんなを知ろう



夜が近づいても、まだ帰りたくない。



二人の落ち着きは、どこから来るのだろう。



指導役も、少年の輝く目に気づく。



パーカーの大人が、ヘッドホンを置いて話そうと言う。



受信機には少し待ってもらおう。



冒険を追う前に、三人を知っていこう。

Lucas — 答えを探すまなざし



質問する前から、好奇心が顔に出る。



大きな目が、小さな変化を追う。



茶色の髪は、いつも一房はねている。



気になると、少し首をかしげる。



小さなことにも、じっと目を向ける。



その熱意の奥には、理解したい気持ちがある。

心を動かすもの



別の景色から届く声にひかれる。



物と音のつながりを知りたい。



地図を見ると、いろいろな道を想像する。



ノートなら発見を手元に残せる。



一歩ずつ、できることを増やしたい。



今は、聞くことがその願いを育てる。

なかなか言えないこと



簡単すぎる質問をしないか心配になる。



ボタンが多くて、何から始めればよいか迷う。



すぐ成功して、仲間だと感じたい。



ためらうと、つい目を伏せる。



指導役は、言葉を探す時間をくれる。



質問できると、部屋が少し身近になる。

手も気持ちを語る



発見を話すと、手も一緒に動く。



聞くときは、手を休めて集中する。



質問を思い出すと、指を一本上げる。



言葉より先に、鉛筆が絵を探すこともある。



迷ったときは、迷いを示せるようになった。



小さなしぐさも、会話の言葉になる。

いろいろな表情



驚くと、目が大きく開く。



集中すると、眉が少し寄る。



迷うと、唇をきゅっと結ぶ。



がっかりすると、少しだけ肩が落ちる。



新しい考えが、また笑顔を灯す。



何かが分かったときが、一番うれしい。

青い服とノート



青いパーカーが、最初の発見に寄り添う。



机にかがむと、明るいひもが揺れる。



ヘッドホンは、聞くことに集中する合図。



ノートには答えも疑問も残る。



役立つ絵は、完璧でなくてよい。



なじみの物が、学ぶ心を整える。

どの向きからも好奇心



正面では、話す人の目を探す。



横顔では、気になる音に耳を向ける。



後ろ姿なら、窓辺の青いフードが目印。



座ると、説明を追ってノートに近づく。



立つと、一歩引いて全体を見る。



場所が変わっても、知りたい気持ちは同じ。

勢いに道をつける



考えが、観察より先に走ることもある。



手を伸ばしかけて、先に聞こうと思い出す。



その勢いを、はっきりした質問に変える。



指導役が、一つの観察を選ぶ手助けをする。

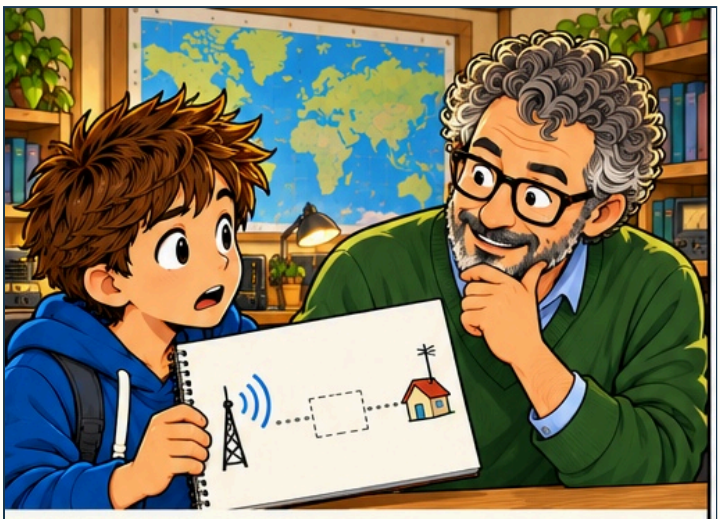


ひと休みすると、考えが明確になる。



向かう先があれば、熱意は力になる。

分からないと言う勇気



やっと、描き終えられない絵を見せる。



どこで考えが止まったか伝える。



指導役は代わりに仕上げない。



よい質問が、別の探し方を開く。



もう一人の大人が、新しい案を聞く。



少年も、探求に役立てると気づく。

Henri — 緑のセーターの指導役



白髪、眼鏡、緑のセーターが目印。



説明の前には、よく笑顔がある。



機械より先に、人を見る。



質問には、椅子ごと相手へ向き直る。



少年の目に理解が生まれるのがうれしい。



すべて決めず、一緒に探す人だ。

忍耐を伝えるしぐさ



鉛筆を置き、最後まで話を聞く。



沈黙のたびに説明を詰め込まない。



うなずいて、続きを促す。



開いた手は、急がず観察しようという合図。



疲れが見えれば、休憩も勧める。



待つ姿勢が、学ぶ人の場所をつくる。

伝えたいこと



見方を変える質問が好きだ。



長い文の暗唱より、理解した絵を大切にする。



順序立てて確かめることを評価する。



少年自身の言葉で聞く説明が、特にうれしい。



観察が必要なら、答えは待てる。



教える第一歩は、探しやすくすること。

自分も学び続ける



何でも知っているふりはしない。



あいまいな点は時間をかけて確認する。



記憶だけに頼らず、資料を開く。



経験があっても、質問はなくならない。



二人で観察を比べる。



限界を認めることも、信頼を育てる。

指導役の表情



温かい笑顔で迎える。



集中すると、ノートを眼鏡に近づける。



驚くと、眉が上がる。



迷いは、考え込む表情になる。



考えがまとまると、控えめにほほえむ。



少年の成長に、静かな喜びを感じる。

指導役のノート



時間をかけた考えが残っている。



簡単な絵も、途中の絵もある。



眼鏡を通して、細部を読み返す。



緑のセーターが、机の穏やかな時間に寄り添う。



紙は貸しても、鉛筆はそれぞれに任せる。



物は見せびらかすためでなく、方法を共有するため。

二つのリズムが出会う



少年は、いくつも質問を持ってくる。



指導役は、まず一つ選ぼうと提案する。



一人が勢いを、一人が落ち着くリズムを添える。



少年が、指導役の見落としに気づくこともある。



そんなときは、考えを見せてほしいと頼む。



互いに聞くことで、二人の関係は進む。

Simon — 緑のパーカーの大人



パーカーは、指導役のセーターとは違う。



茶色の髪と濃い短いひげが顔を縁取る。



眼鏡はなく、目の表情が豊かだ。



発見を気軽な笑顔で迎える。



物が思い出を呼び、話が始まる。



そばにいると、話すのも聞くのも楽しい。

出会いを楽しむ心



声の向こうにいる人にもひかれる。



カードは、機械だけでなく会話を思い出させる。



同じ趣味にも、違う楽しみ方がある。



話しながら、少年の質問を待つ。



思い出は、丁寧に聞くことから始まる。



人への好奇心が、話の中心にある。

温かな活力



開いた両手に、熱意が表れる。



少年の考えを追い、ノートに身を寄せる。



うまくいかないときも、笑いが肩をほぐす。



聞き続けるため、黙ることもできる。



提案したら、返事を待つ。



明るさの中に、他人の迷いを置く場所がある。

この人の表情



再会には、大きな笑顔。



注意深く聞くと、しぐさが柔らかくなる。



思わぬ音に、目が開く。



迷うと、ひげの上で眉が寄る。



考えを共有すると、少しいたずらっぽい顔になる。



誰かの喜びが、自分の笑顔も大きくする。

ヘッドホンと思い出



持ってきたヘッドホンは、聞く楽しみのしるし。



緑のパーカーは、気取らず親しみやすい。



手の中のカードから、話が始まる。



思い出を大切にしても、勲章にはしない。



閉じたノートにも、確かめたいことが残る。

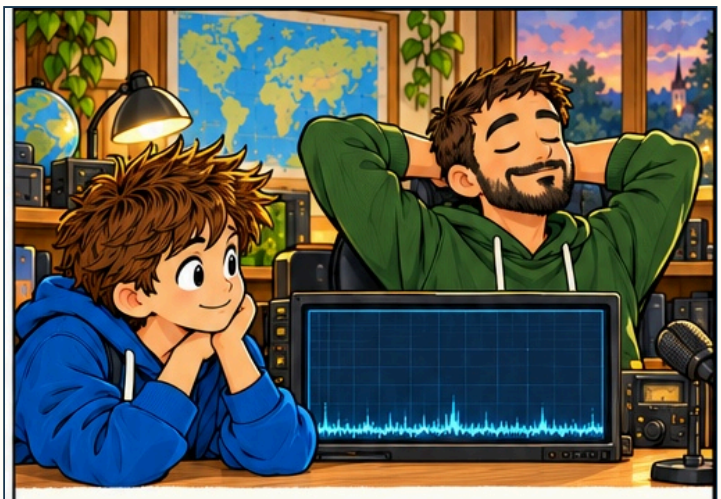


物は情熱を語るが、人のすべてではない。

熱意だって待てる



この人も、考えが早く進むのは好きだ。



けれど聞きにくいときは、速度を落とす。



印象と、実際の記録を比べる。



分からない細部は、そのままにする。



忍耐はいつでも練習するものだと、少年は知る。



経験を重ねても、学ぶ楽しさは残る。

机を囲む三つの席



少年 (Lucas)は疑問と発見への願いを持ってくる。



指導役 (Henri)は、探す時間を大切にする。



パーカーの大人 (Simon)は、出会いの喜びを分け合う。



同じ無線機にも、見方はそれぞれ。

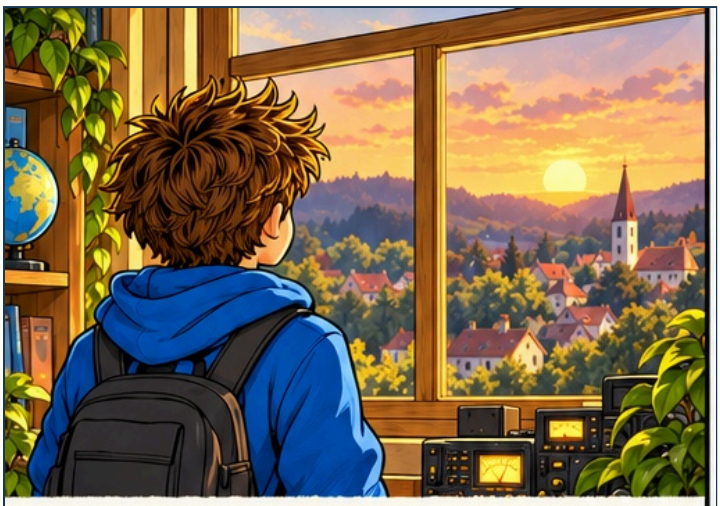


一つの役割だけで、人のすべては語れない。



三人で、好奇心にいろいろな道を開く。

遠くからも分かる三人



窓辺の青いフードが、若い観察者の目印。



白髪と眼鏡には、緑のセーター。



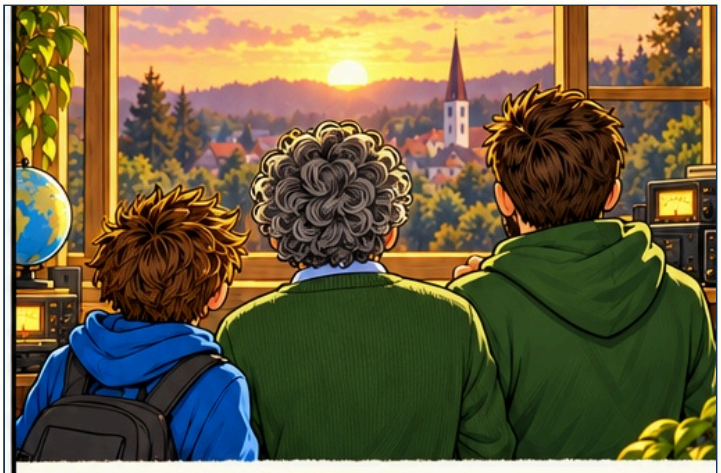
濃いひげと緑のフードは、もう一人の大人。



机の周りを動いても、らしさは変わらない。



少年が新しい角度を探すと、大人が場所を空ける。



違いがあるから、みんなを見つけやすい。

集まる場所



この物語では、活動室が出会いの場になる。



机には、受信機とノートの場所がある。



壁の地図は、別の景色へ想像を誘う。



窓は、機械の外の世界を思い出させる。



空いた椅子一つが、来客を迎える。



場所の価値は、分かち合えることにある。

また登場する物たち



受信機は、聞きたい声を届ける。



ヘッドホンは、集中する時間を支える。



ノートは、実際の観察を残す。



絵入りカードは、交流の向こうの人を思わせる。



最初の発見の間、マイクは休んでいる。



道具だけでは使い方は決まらない。まず学ぼう。

敬意のための場所



受信した声は、最後まで聞く。



部屋で話す人にも、同じ注意を向ける。



すぐ分からなくても、からかわない。



考えは、見下さず観察をもとに話し合う。



礼儀は、マイクから離れても大切だ。



敬意は、共に過ごす自然な方法になる。

まだ知らないこと



少年の前には、白いページがたくさんある。



指導役は、考えを見直すときもあると知っている。



もう一人の大人は、次の話を取っておく。



誰もが何かを持ち寄り、疑問も持っている。



初めから成功するとは限らない冒険だ。



一緒に探したい気持ちから、すべて始まる。

最初の聞き取りへ戻る



好奇心が生まれた席で、またヘッドホンをつける。



部屋は少し、よそよそしくなくなった。



物は分かっても、全部使えると思ってはいない。



指導役が隣に座り、観察を聞く。



ひげの大人は、カードをしまいながら手を振る。



見る、聞く、それから尋ねる。習慣が生まれる。

質問のノート



帰る前に、訪問の記録をまとめる。



分かった音、描いた道、まだあいまいな点。



推測を、確かな答えにはしない。



指導役が、次に知りたいことを尋ねる。



すぐにいくつも考えが浮かぶ。



一つを選び、次のページの最初に置く。

待っている席



ヘッドホンは台へ。ノートは少年の手に。



二人に、一緒の時間へのお礼を言う。



指導役は、また座れる椅子を示す。



パーカーの大人も励ますようにほほえむ。



近道ではなく、また来たい気持ちを持ち帰る。



活動室の光が、親しい目印になった。

好奇心も家へ帰る



帰り道、あの声を思い出す。



眼鏡の奥と、ひげの上の笑顔も浮かぶ。



物の記憶が、人の思い出につながった。



家では設備をまねず、ノートを開く。



絵を加え、続きのために余白を残す。



持ち帰った疑問の中で、冒険は続く。

次の訪問で



戻ってきたとき、最初の質問は用意できていた。



指導役は、途中で生まれる質問も歓迎する。



急がず、ノートと無線機のそばに戻る。



機械だけでなく、よい選択も学びたい。



指導役は、小さな手がかりのある別のノートを出す。



これから、無線を楽しむ心構えを知っていく。

冒険が始まる



Lucasは自分のノートを、指導役の隣に置く。



最初の訪問は、人、手がかり、疑問をくれた。



何でもやる前に、まだ多くの発見が待っている。



熱意が、居場所と仲間を見つけた。



指導役が、アマチュア無線の心得を開く。



第2巻はここから。聞き、理解し、選び方を学ぼう。